



令和4年度 医療技術等国際展開推進事業 全体総括

国立研究開発法人
国立国際医療研究センター
国際医療協力局
医療技術等国際展開推進事業 事務局

Copyright © 2020 National Center for Global Health and Medicine. All rights reserved.

事業の目的



- 我が国の医療制度に関する知見・経験の共有
- 医療技術の移転や高品質な日本の医薬品・医療機器の国際展開を推進
- 日本の医療分野の成長を促進しつつ、相手国の公衆衛生水準及び医療水準の向上に貢献

- 国際社会における日本の信頼を高め、日本及び途上国等の双方に、好循環をもたらす



Copyright © 2020 National Center for Global Health and Medicine. All rights reserved.

国際展開推進事業の目的は、我が国の医療制度に関する知見・経験の共有、医療技術の移転や高品質な日本の医薬品、医療機器の国際展開を推進し、日本の医療分野の成長を促進しつつ、相手国の公衆衛生水準及び医療水準の向上に貢献することで、国際社会における日本の信頼を高め、日本及び途上国等の双方にとって、好循環をもたらすことです。

事業の内容



次のいずれかに資する研修事業

1. 日本の医療制度を世界で展開

- ・ 医療制度、保険制度、薬事制度等の規制制度・医療環境整備
- ・ 医療情報システムの構築・運用等

2. 日本の医療技術や医療機器、医薬品等を世界に展開

- ・ 日本の医療技術、医療機器、医薬品等の資機材
- ・ 日本の医療施設における運営体制、マネジメント・研修・施設等の管理運営・人材開発・設備
- ・ 相手国の認証取得、予防・診断・治療ガイドライン収載、保険収載等を目指している医療製品を活用

3. 国際的な健康課題に対応

- ・ 公衆衛生危機、感染症、高齢社会対策、女性とこどもの健康改善、非感染性疾患(NCD)、災害、メンタルヘルス、栄養等

*研究事業は対象でない

Copyright © 2020 National Center for Global Health and Medicine. All rights reserved.

事業の内容は、次のいずれかに資する研修事業です。

1. 日本の医療技術や医療機器、医薬品等を世界に展開する事業

日本の医療技術、医療機器、医薬品等の資機材を活用する技術的な研修や、医療施設における運営体制、マネジメント・研修・施設管理の管理運営・人材開発・設備に関する研修等が相当します。

2. 日本の医療制度を世界で展開する事業

医療制度、保険制度、薬事制度の規制制度・医療環境整備に関する研修等です。

3. 日本の経験や技術が国際的に注目されつつある課題に対応する事業

国際的な課題、例えば高齢社会対策や非感染性疾患等への対応に関する研修。

ただし、研究事業は対象となりません。

研修の実施



1. 技術者・専門家の派遣



・国際的な課題・我が国の医療政策や社会保障制度等に見識を有する者
 ・我が国の医療従事者や医療関連産業の技術者等
 を関係国へ派遣し研修を実施

2. 研修生の受入



・医療従事者
 ・保健・医療関係者等
 を諸外国から受入研修を実施

3. オンライン研修



・技術者・専門家
 ・研修生
 をオンラインで結び研修を実施

Copyright © 2020 National Center for Global Health and Medicine. All rights reserved.

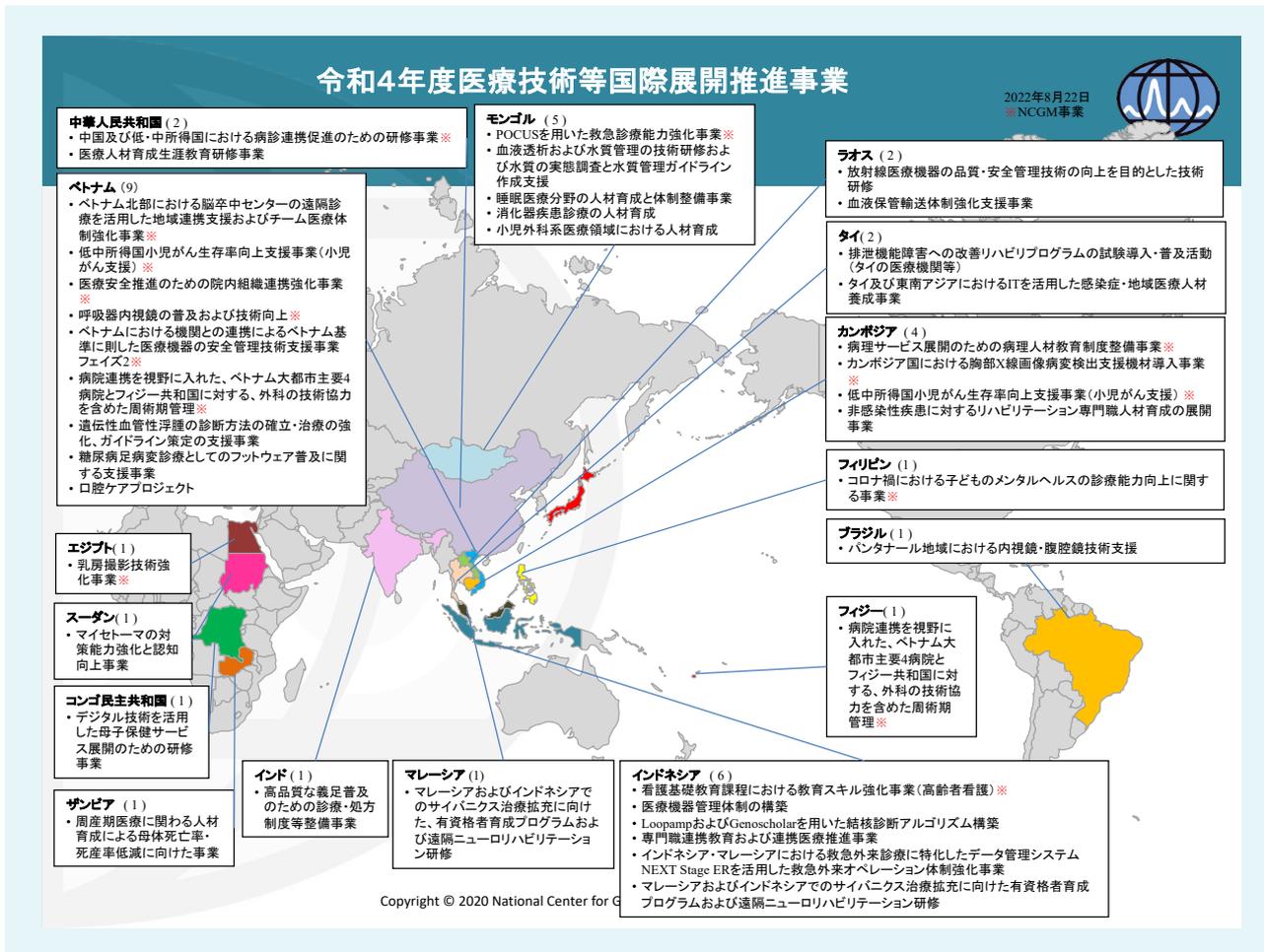
4

研修の実施方法として3つあります。

1. 国際的な課題、我が国の医療政策や社会保障制度等に見識を有する者、医療従事者や医療関連産業の技術者等を対象国に派遣し、研修を実施する。
2. 対象国から医療従事者や保健・医療関係者等を受け入れて、日本の状況を見せながら研修を実施する。
3. 日本の技術者や専門家と対象国の研修生をオンラインで結び、研修を実施する。

令和4年度医療技術等国際展開推進事業 全体総括

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター (NCGM)



令和4年度医療技術等国際展開推進事業 全体総括

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター (NCGM)

医療技術等国際展開推進事業のインパクト



医療技術・機器の国際展開における事業インパクト

- ・ 事業で紹介・導入し、国家計画／ガイドラインに採択された医療技術
- ・ 事業で紹介・導入し、相手国の調達につながった医療機器の数

健康向上における事業インパクト

- ・ 事業で育成した保健医療従事者数

運営指標

- ・ 事業のパラエティ

その他

- ・ 成功している事業からのTipsの収集
- ・ 事業の広報活動

Copyright © 2020 National Center for Global Health and Medicine. All rights reserved.

この国際展開推進事業の事業インパクトは、例年と同様、りんごの木に例えたものを使って説明します。りんごの木が地面から生えており、日本の制度・仕組み・製品そのものが世界に展開されていく（実がなる）というのが本事業の大きな目的となっています。イメージとしては、りんごの実がいきなり実るのではなく、根があり、幹があり、枝が伸びて、はじめて実が実ります。

根に当たるものが日本の医療技術・製品や制度や事業運営に必須となる相手国・相手組織との関係と考えられますが、それを踏まえて伸びていく幹や枝を表す運営指標として、「事業のパラエティ」を用いました。りんごの実（インパクト）を示す指標として、「事業で紹介・導入した技術が、国家計画やガイドラインに採択され、対象国のスタンダードになった数」や、「事業を通して紹介・導入したものが、対象国の器材調達に繋がった数」を使用いたしました。

インパクトにつながった事例と考えられる事業からの Tips 収集も必要と考えています。

以下、順次説明しますが、今年度で本事業も7年目となり、複数年度この事業を重ねる中で、上記のようなインパクトが見えてきている事業は増加傾向にあります。

令和4年度医療技術等国際展開推進事業 全体総括

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター (NCGM)

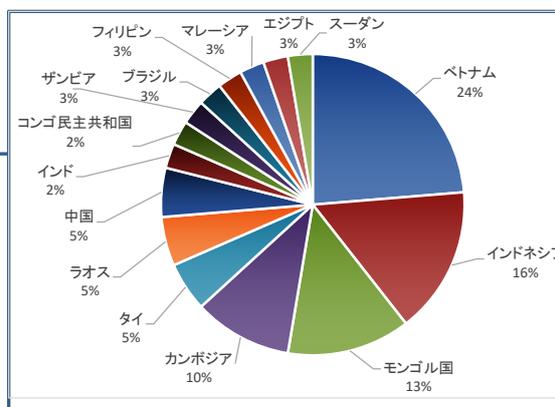
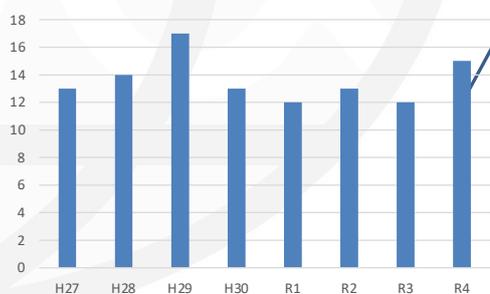
運営指標 (1) 事業のバラエティ



(1)-1 事業実施主体



(1)-2 事業対象国数



Copyright © 2020 National Center for Global Health and Medicine. All rights reserved.

まず運営指標として、事業のバラエティを考えてみます。

事業件数は、例年 30-40 前後で推移しています。今年度の最終的な事業実施数 31 件でした。

事業実施主体ですが、事業運営管理を NCGM が行い他機関と連携しているものを NCGM (国立国際医療研究センター)、外部機関に運営管理について委託契約という形でお願いしているものを外部 (企業、大学、その他) と分けています。その他に含まれるものの内訳としましては、日本検査血液学会といった学会が 2 件、日本理学療法士協会といった協会が 2 件、POC 超音波研究会といった研究会が 1 件、病院主体が 2 件でした。

事業対象国については、計 13 か国、国別にみると、ベトナム、モンゴル、インドネシア等アジア諸国が中心で、アフリカが 2 か国、中南米が 1 か国となっています。例年 5 件程ミャンマーでの事業が実施されてきましたが、今年度は正常不安のため実施が見送られました。

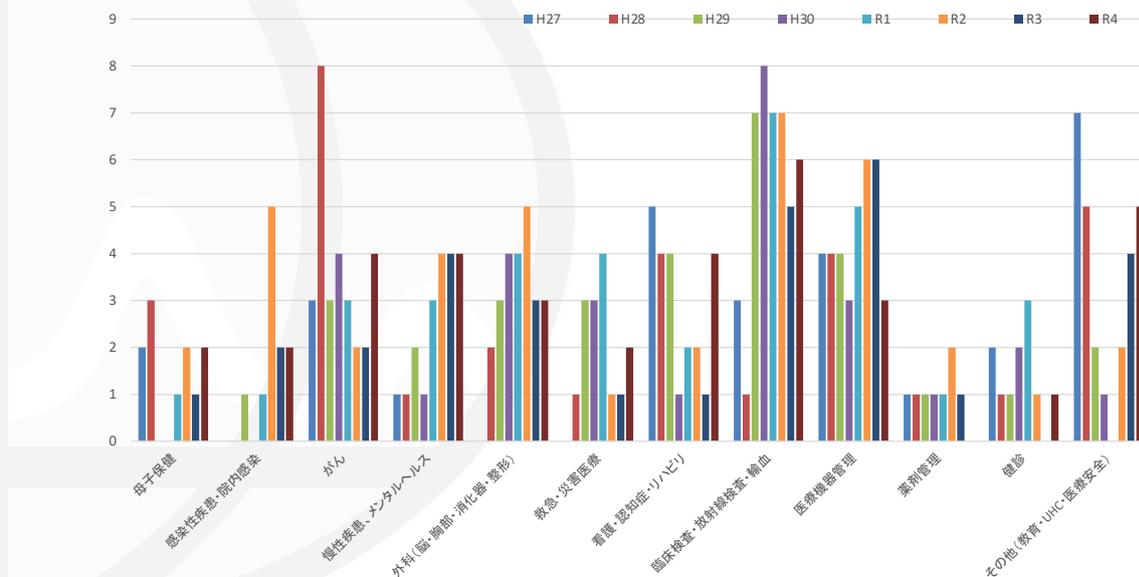
令和4年度医療技術等国際展開推進事業 全体総括

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター (NCGM)

運営指標 (1) 事業のバラエティ



(1)-3 事業対象分野



Copyright © 2020 National Center for Global Health and Medicine. All rights reserved.

事業対象分野別に見てみます。それぞれの分野の一番右端の赤色が令和3年度を示しています。

事業の対象分野については、がん・臨床検査・放射線・輸血・慢性疾患・メンタルヘルスなど、バラエティに富んでいます。近年は特に、慢性疾患・メンタルヘルス、医療機器管理に関する事業が増加傾向にあります。

医療技術・機器の国際展開における事業インパクト(1)



国家計画/ガイドラインに採択された医療技術

令和4年度 **計7事業 計10例(うち予定が6例)**

令和4年度(10例)

- カンボジア:健康増進等におけるスポーツのリハビリテーションが東南アジア競技大会実践ガイドラインに記載(予定)、保健医療戦略10か年計画に理学療法全国的制度が導入(予定):(2)
- マレーシア:遠隔ニューロリハビリテーション研修が国家計画の中で採用された:(1)
- モンゴル:透析用水清浄化ガイドラインがモンゴルの透析施設で使用されるガイドラインとなった、小児の肝臓移植が、国の先進医療としての重要疾患と位置付けられた:(2)
- コンゴ民:医療施設の標準仕様において、ポータブルエコーおよびデジタル産前健診ソフトウェアをセットにして導入(予定):(1)
- ベトナム:ベトナム脳卒中診療テキストが出版された、2023年の秋ごろに発令される保健省大臣の医療機器に関する新通達の草案となった(除細動器、保育器、透析装置の3項目):(4)

Copyright © 2020 National Center for Global Health and Medicine. All rights reserved.

次に、事業インパクトについて示します。

まず、「国家計画やガイドラインに採択された医療技術」です。国レベルでの診療ガイドラインへ収載されることで国内に広く知られ、健康保険に適応されることで自前での調達や継続した技術の運用が促進されます。今年度は、ここ3年間で最も多い11例の採択がありました(H30年度:4件、R1:4例)。

本事業で導入予定の小児肝臓移植は、モンゴル国が掲げている導入すべき先端医療技術の一つとして採択されました。

インドネシアでは、教育用書籍として Proceeding book of IRA-Keio Rheumatology 2021、インドネシアの実情に沿った現地語での診療ガイドライン(シェーグレン症候群、変形性関節炎、強皮症、ステロイド骨粗鬆症)4編、ビデオ教材27編(医師対象18編、患者対象9編)を作成、現地の大学、病院に頒布し、一部をIRAのホームページにて公開しました。

医療技術・機器の国際展開における事業インパクト(2)



相手国の調達につながった医療機器の数(種類別)

令和4年度 **計5事業 5種類**

R4年度(5種類)

- インドネシア:サイバニクス治療機器1台:
- マレーシア:サイバニクス治療機器30台(予定)
- モンゴル:終夜睡眠ポリグラフ装置1台
- コンゴ民主共和国:ポータブルエコーとSPAQソフトウェア2セット
- ベトナム:EBUS1台
- ベトナム:内視鏡手術器機1台

Copyright © 2020 National Center for Global Health and Medicine. All rights reserved.

もうひとつのインパクト指標である、相手国の機器・器材の調達に繋がったものを見てみます。

今年は前3年間より少ないものの、10種類の医療機器の調達がありました(平成30年度18種類、令和元年度23種類、令和2年度12種類)。

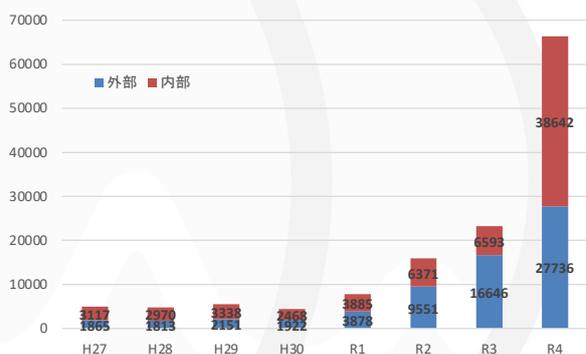
令和4年度医療技術等国際展開推進事業 全体総括

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター (NCGM)

健康向上における事業インパクト(1)



事業で育成した保健医療従事者の人数



現地の講師・専門家のうち、以前に展開推進事業による研修を受けた者の割合

	現地の講師・専門家数	以前に研修受講した講師・専門家の数	割合
NCGM	368	206	56.0%
外部	293	78	26.6%

⇒ 令和4年度 計 **66,378人**

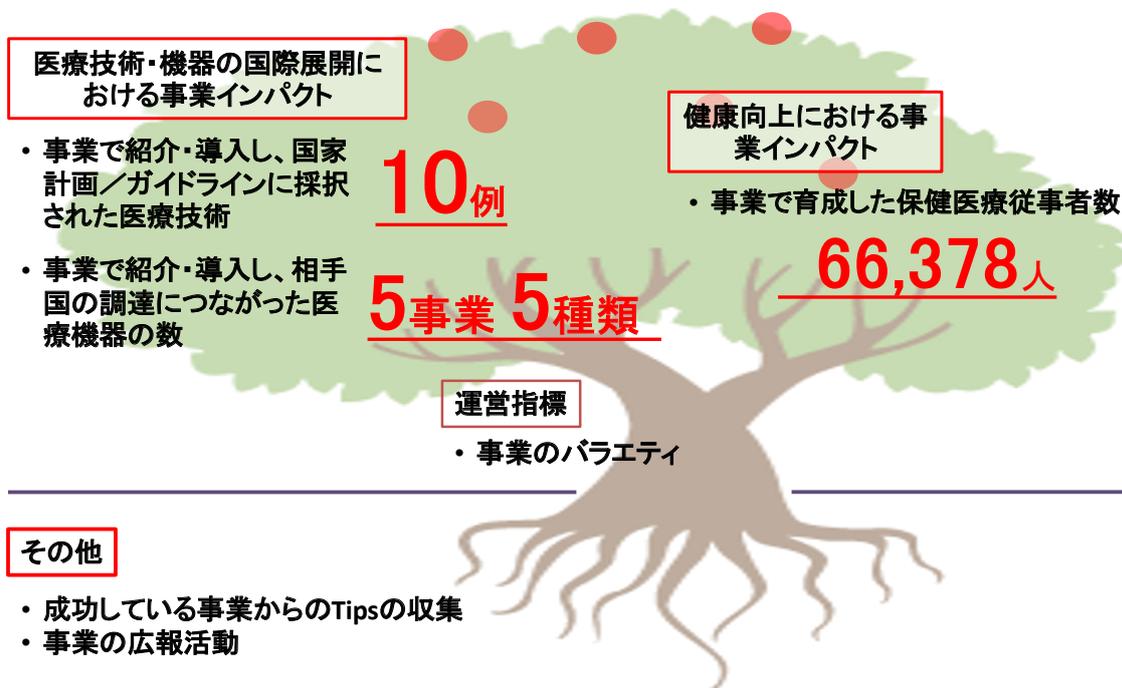
Copyright © 2020 National Center for Global Health and Medicine. All rights reserved.

健康向上における事業インパクトとして、本事業7年間の人材育成の推移と総計を示します。

R1年度まで、日本に外国人研修生を受け入れて実施した研修（本邦研修）と相手国で実施した研修（現地研修）による人材育成が主でしたが、R2年度以降、新型コロナウイルス流行の影響で遠隔会議システム等を利用した研修（遠隔研修）が主となりました。今年度、現地で対面研修を行った事業は1件のみでした。遠隔研修の特徴として、数百人、時には千人を超える参加者を対象にセミナーを開くことができるため、育成した人材数が大幅に増えています。ただし、遠隔講義・セミナーを通して得た新しい知識や技術が、どの程度正しく理解され、導入へ繋がるかというのは、測定が困難です。（各事業実施者から提出いただいた報告書を元に算出していますが、実際の相手国での研修生の数値にズレが生じている可能性は否定できません。おおよその規模の人数、というご理解をいただければと思います）

また、今年度は、事業を展開する上での成果の一つとして、現地の講師・専門家のうち、以前に展開推進事業による研修を受けた者の数・割合をご報告いただきました。NCGM・外部事業とも、現地で講師・専門家の半分程度が、以前に展開推進事業による研修を受けた者であることが分かり、今後も増加が期待されます。

医療技術等国際展開推進事業のインパクト



以上が、今年度の事業評価のまとめとなります。

次年度も事業継続されることになりましたが、事務局としては引き続き事業運営管理を支援をしながら、事業評価を継続し、成果の発信を積極的に行っていけたらと思います。引き続きよろしくお願いいたします。

成果報告



○国際医療展開セミナー

- 「医療製品を低・中所得国へ ～実践で役立つ国際展開戦略～」

2023年1月31日開催。低・中所得国への医療製品の効果的な国際展開の戦略について理解を深めることを目的に、実際に低・中所得国で医療製品を国際展開している企業、またWHOや日本国内で国際展開へ向けた企業支援を行っている方の経験から、実例に基づく国際展開戦略を紹介。

https://kyokuhp.ncgm.go.jp/activity/internal/consult/access_delivery/index.html

○論文投稿

- Eiichi Shimizu et. al., 「Seven steps in the value chain of health products for equitable access and delivery in low- and middle-income countries」GHM open 文献調査やケーススタディに基づき、低・中所得国の必要としている人々に必要とされる医療製品を効果的に届けるための包括的な枠組みとして、7つのステップを提案。

https://www.istage.jst.go.jp/article/ghmo/advpub/0/advpub_2022.01008/article/-char/en

- 大原佳央里, 日本の透析医療を世界へ ～厚生労働省 医療技術等国際展開推進事業から見た課題と展望～, 特別寄稿, 医機連ジャーナル掲載第118号

2022年3月に開催した、透析に関連した展開推進事業関係者の経験共有会の内容を概説。低中所得国において透析医療を広めるために必要な視点や課題を議論。

https://kyokuhp.ncgm.go.jp/press_room/media/2022/20220725_1kiren118_ohara.pdf